

■雨ニモマケズ（中略）夏ノ暑サニモマケヌ■

確率的にはそう高くはないとは言え、もしも降るとダメージ甚大なのが雨。特に昨今のゲリラ豪雨と呼ばれるごく短時間に多量の降雨がある今回は長時間待機があり得るのなら遭遇確率もまた上がるので、全員最低限の備えはしておこう。

しかし、持ち物を考えると使わない雨対策グッズはデッドウエイトになってしまうので、極力暑さ対策や汗対策と一体のものとして考えるのがオススメだ。

●雨対策はレイヤーで考える

雨といえばカッパやポンチョ（レインウェア）だが、実のところ、これは雨対策としては一番表層の、いわば『最後の仕上げ』に過ぎない。ごく短時間のパラパラと降る程度の小雨ならともかく、長時間に渡って雨模様の屋外で待機する、あるいは本格的な雨にさらされるとなると、たった1枚のレインウェアだけでは全く足りないのだ。

雨に当たれば身体は当然濡れる。しかし、レインウェアを着ていたにも関わらず、気がつけばびしょびしょに濡れていた、ということが特に夏には頻発する。

これは主にウェアの内側に籠った湿気が雨に冷やされて結露したもので、ほぼ不可避の自然現象だ。結露である程度濡れても、ゲリラ豪雨の土砂降りにずぶ濡れになるよりはマシ、という選択の問題でもある。

多量に汗をかくのも結露した湿気で濡れるのも服が濡れることには変わりがないとするなら、汗対策の延長に、レインウェアと組み合わせた時により快適を保てるウェア構成が存在すると思うことができるのではないだろうか。

◆第四層：レインウェア◆

雨を受け止める最外層。荷物の上からかぶれるポンチョ型、上下に別れ、最も防水力に優れるセパレート型、簡易的なコート型などいくつかのタイプがあるが、コミケットの環境下では、脱ぎ着が楽でカバンもカバーできるポンチョ型が最もオススメ。ただし豪雨になると地面からの跳ね返して下半身から濡れる。また、1枚のシートをかぶっているだけなので強風には弱いので、洗濯バサミを数個持っていくと◎。

◆第参層：タオル/帽子◆

陽射し対策の基本としても有効な帽子と大判タオルは晴雨問わすの必須アイテムだ。雨の時には肩にタオルをかけてからレインウェアを着込み、帽子の上からフードをかぶることで先に挙げたウェア内での結露を大分軽減することができるため、あると無いとでは快適性が大きく異なる。つばのある帽子は顔に雨が当たるのも防げるので、特に眼鏡使用者には大きなメリットとなる。汗や雨水を拭くハンドタオルも別途数枚用意しておきたい。

◆第三層：シャツ/ズボン◆

暑さ対策、雨対策としてシャツを考えると、ポリエステル系化繊か、それが半分以上混紡された生地のシャツやズボンがベストだ。最も一般的な綿（コットン）が主素材のウェアは、一度湿気を含むと体温くらいではなかなか乾かないという点で上下を問わず全くコミケット向きではないと断言できる（乾きにくい分雑菌も繁殖しやすく、臭いの原因にもなる）。

面積の大きなシャツやズボンは、汗や雨などの湿気を多量に吸い込み、外部に放出する機能も担っているため、その機能を強化した製品を選択すれば快適性は格段に向上するのだ。

また、UVカット効果、熱線カット効果なども付加された製品なら猛暑下でも一層快適に過ごせるので、機能に凝りたい部分だ。

